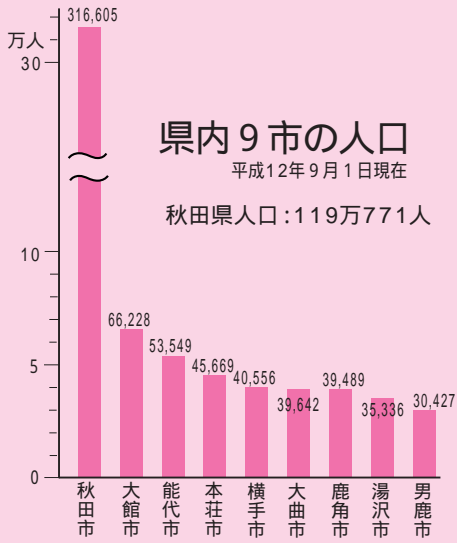


DATA

数字を比べてみよう



一方、死亡者数は昭和五十年代は年に千五百人前後でしたが、人口の高齢化とともに増加傾向にあり、平成十一年には二千三百六十五人になりました。今後も高齢者人口は増え続けま

秋田市の転入、転出の動きである社会動態は、グラフ3のように、県内移動と県外移動で状況が違ってきます。

秋田市の社会動態は、昭和六十年〜平成元年以外は毎年増加になっていますが、これは県内の他市町村からの転入超過が大きいことによるもので、首都圏を中心とした県外への移動は毎年マイナスになっているのが実

県内人口が秋田市に

つまり全体で社会動態は増えているものの、県外への人口流出が止まっているわけではありません。秋田市の人口が増えているも、秋田県の人口は減ることになるわけです。

下は秋田市の年齢別の人口構成を示した人口ピラミッドです。これを見ると、現在の五十年前後の「団塊の世代」と呼ばれる人たちが六十五歳以上になる十数年後には、高齢者人口がさらに大きく膨らんでいくことが予想されます。

四十年ほど前はきれいな三角形だった人口ピラミッドが徐々に姿を変え、少子高齢化してゆく社会の形を見せてくれます。

三角形じゃなくなった

秋田市の男女別・年齢別人口

(平成11年10月1日推計人口 資料:住民基本台帳による推計値)

